

明治八年  
大阪  
錦田  
新聞  
第十六号

北組第百四區  
川田は名古川の  
お龜とてませしく  
くると寡婦あり  
男女二人の子を抱へ  
あはまて業は日を送り  
細き煙りも立垂る折しも  
病氣まらぬのせ何あてなる日と越さんと男子と  
他家へ奉公させ娘お福をかくと十二歳まで是迄は  
奉公させし事もあつたといふ食せしものあさひ或る  
人のゆめまませ何来方病人の介抱人は遣せしよ  
歳十二歳のませとせんとて幾時か長姉まことの  
てんまを雇主人の悦びも日頃お龜の持心に存て  
親のせきと具習ひて世帯取者より入直中此幸か  
其實直とあはせして區長長女の自來と恵まれこま  
ありといふこと

他の娘も戀びて  
お福もあつて両親の  
言葉とせむく  
ことあらま

略試再圖  
みよしの



阿波文板

